

国際関連情報 アジア情報

第11回日中韓3か国会計基準 設定主体会議報告

研究員 おかもと たけひろ
岡本 健寛



1. はじめに

2011年10月26日に中国の厦門（アモイ）で、第11回日中韓3か国会計基準設定主体会議（3か国会議）が開催された。本会議はアジアの近隣3か国の会計基準設定主体間で、内外のさまざまな問題について認識を共有し、意見交換を行うことを目的にスタートし、今回で11回目となった。

企業会計基準委員会（ASBJ）からは、西川委員長、加藤副委員長、新井副委員長、及びスタッフ1名が参加した。また、日中韓3か国の会計基準設定主体に加え、オブザーバーとして国際会計基準審議会（IASB）から鶯地隆継理事及びWei-Guo Zhang 理事が、また同じくオ

ブザーバーとして、香港会計士協会、マカオ監査人会計士登録委員会の代表者が参加し、総勢30名の参加者により意見交換を行った。

今回の会議では、各国からのアップデートに加え、IASBのアジェンダ協議、国際財務報告基準（IFRS）の個別の基準、アジア・オセアニア会計基準設定主体（AOSSG）会議、新興経済グループ（EEG）に関する各セッションが行われた。それぞれのセッションにおける議論等の概要は次のとおりである。

2. 各国からのアップデート

各国からは、次の内容のアップデートが行われた。

【日本】

- IFRSに関連する直近の国内状況
- 日本の市場関係者の懸念
(OCI/リサイクリング、公正価値、開発費資産計上、のれんの償却、導入・解釈問題等)
- 東京合意の成果
- 国際財務報告基準財団 (IFRS 財団) のサテライト・オフィス

【中国】

- 中国基準のIFRSとのコンバージェンス・モデル
中国基準 (新企業会計準則) は、IFRSと実質的に同一 (Substantially Identical) と評価。
- IFRSとの継続的かつ完全なコンバージェンスへ向けてのロードマップ
IASBのアジェンダに20のワーキング・グループで対応し、IASBとの定期的な会合を実施している。
- 新企業会計準則とIFRSとのコンバージェンスの観点から、中国としてIASBに重点的な対応を要望する点
 - ◇IASBによる既存のIFRSのメンテナンスと、導入問題に注力すること。
 - ◇これまでのIFRSの導入に対する評価 (導入後レビュー) を行うこと。
 - ◇主要プロジェクトの発効日を2016年以降に設定すること。

【韓国】

- 韓国会計基準委員会 (KASB) が2011年に注力するポイント
2011年に強制適用が開始された、K-IFRS (韓国版IFRS) に関する実務上の負担を軽減し、スムーズな導入を図ること。
- IFRSの初度適用者に関する論点

• IFRSに関する個別論点

不動産開発に係る収益認識の問題 (IFRIC 解釈指針第15号関連)、営業活動の成果 (営業利益) の開示、外貨に関する会計処理 (IAS 解釈指針第21号関連) 他

また、以下のテーマについては、3か国間でより具体的な意見交換が行われた。

➢ 営業利益 (Operating income) の開示

➢ IFRS 第1号「IFRSの初度適用」

➢ 収益認識 (不動産販売・建設工事契約関連)

➢ 公正価値測定

➢ IAS 第21号「外国為替レート変動の影響」

➢ IFRICの実効性、効率性

3. IASBのアジェンダ・コンサルテーション

2011年のIASBによるアジェンダ・コンサルテーションについて、鷲地理事から概要及びそのポイントについて説明されたあと、ASBJよりAOSSGのコメントレーターでは、優先度の高いプロジェクトとして次の3点を掲げることを紹介し、意見交換を行った。

- 概念フレームワーク (特にその他の包括利益 (OCI) 及びリサイクルの考え方、表示及び開示、支配の概念)
- 基準の適用後レビューと導入に関する支援
- IAS 第41号「農業」の限定的な改訂

4. EEG¹の紹介

中国より、中国財政部会計司のYang Min 司長が副議長を務めるEEGに関して、新興経済国のIFRSの開発への関与を促進し、新興国に

1 EEGに関する詳細は、下記のIFRS財団のウェブサイトにも掲載されている。
<http://www.ifrs.org/The+organisation/Advisory+bodies/EEG/About-the-EEG.htm>

における IFRS の適用、導入に関する諸問題に対応するために IASB の諮問機関として設立され、2011 年 7 月に第 1 回会合が北京で開催されたことが紹介された。第 1 回目の会合では公正価値測定について、2011 年 12 月にインドで開催される第 2 回会合では外貨換算等がメインテーマであることも併せて紹介された。

5. IFRS の個別基準に関する論点

Zhang 理事から、IASB における、収益、リース、金融商品（減損会計）、保険契約についての最新の議論が紹介された後、IFRS の個別の基準に関して、各国から次のような論点が提示され、意見交換を行った。

- リース（日本）
 - 貸手側・借手側の会計処理
 - 更新オプション
 - 変動リース料
 - 短期リース
- 収益認識（日本）
 - 時の経過によって充足する履行義務の要件
- 金融商品（中国）
 - 金融商品の償却費と減損
 - ヘッジ会計
 - 金融資産・負債の相殺
 - IFRS 第 9 号の適用日
- 保険契約—ED からの主な変更点（韓国）
 - 割引率
 - 残余マージン
 - 獲得コスト
 - 新契約費
 - 表示
 - 移行措置、適用日
- 排出量取引（中国）
 - 排出権に係る認識と表示・開示
 - Cap & Trade スキーム等、排出量取引プ

ロジェクトで扱う範囲の拡大

- 排出権の公正価値が入手困難な場合
- 排出権のリース・販売

6. AOSSG の活動について

AOSSG 議長国（当時）である日本から今後の AOSSG 全体の活動の方向性や、ワーキング・グループ活動の改善提案を説明し、意見交換を行った。

7. その他

会議の最後に、本会議のコミュニケが採択され、その中では、今後の 3 か国設定主体間でのコミュニケーションの継続、見解の調和、AOSSG 発展への協力に加え、2012 年 10 月に東京に開設予定の、IFRS 財団のアジア・オセアニア地域におけるサテライトオフィスに対する全面的な支援についても合意した。

今回の 3 か国会議は、2012 年に韓国で開催される予定である。

【主な出席者】（敬称略）

日本

西川郁生	ASBJ 委員長
加藤 厚	ASBJ 副委員長
新井武広	ASBJ 副委員長

中国

Yang Min	財政部会計司司長
Li Yuhuan	財政部会計司副司長

韓国

Suk Sig Lim	KASB 委員長
Chanhong Kim	KASB 副委員長

IASB

鷲地隆継	IASB 理事
Wei-Guo Zhang	IASB 理事